

## 「見る・追う」と「見られる・追われる」場面に関する検討

○山内裕斗・安藤美華代

(岡山大学大学院 社会文化科学研究科)

## 問題

人から見られることや追われることで不快に感じる場面は多々あるだろう。しかし、見られる、追われる立場が存在するならば、逆に、見る、追う立場も存在する。そのように「見る・追う」状況のときでも、何かもやもやしたり落ち着かない、などの不快感を抱く人もいるのではないか。

このように、日常で多く見られる「見る・見られる」また、「追う・追われる」場面について、詳細に調査した研究はほとんど見られない。そこで本研究では、「見る・追う」場面と「見られる・追われる」場面を調査し、今後の研究で用いることが可能な質問項目を作成することを目的とする。

## 方法

「見る・追う」場面、また、「見られる・追われる」場面に関して、どのような場面があるかを調べ、本調査で用いる質問項目を作成するため、心理学を専攻する大学生5名（男性1名、女性4名、平均年齢21.2歳）に、電話にて半構造化のインタビュー調査を行った。倫理的配慮として、「研究実施計画」「研究に関する資料」「研究に参加することによる利益、不利益、危険性」「プライバシーおよび個人情報の保護」「研究計画のお知らせ」「同意及びその撤回」の6点について説明を行い、同意書への記入により、調査への同意とした。「追う・追われる」、また、「見る・見られる」という場面を、でき

るだけたくさん挙げてください。」という指示を行い、回答に応じて、その場面で想定している相手との関係性（知っている人か知らない人か）や類似した場面、その時の感情などについて、質問を加えた。調査の電話時間は、最長30分、最短10分、平均20分であった。

## 結果と考察

得られた回答をKJ法（川喜田, 2017）により分類した後、一つの場面において「見る・追う」と「見られる・追われる」で対になるよう、それぞれの場面で16項目ずつ、計32項目の質問を作成した（Table1）。

調査対象者は大学生であったため、アルバイト時の体験や、授業中に先生や他の学生から見られる状況、学業やスポーツ時にライバルと競争するときなどの回答が多く挙がった。また、自分の行動を、自分を知らない人から見られるよりも知っている人に見られる方が、気になったり緊張したりするという回答があった一方で、勉強している様子は知っている人から見られていた方がやる気が出るという回答も挙がった。このように、行動の種類と、それを見る相手との関係性は、見られる人の感情や動機に関わることが示唆され、相手との関係性について、より詳細に調査することも有意義な研究となると考えられた。

Table1 調査から得られた質問項目

「見る・追う」	「見られる・追われる」
マラソンで前に位置する選手を追いかけるとき	マラソンでうしろに位置する選手から追われるとき
鬼ごっこで人を追いかけるとき	鬼ごっこで鬼に追われるとき
ライバルに勝ったとき	ライバルに負けたとき
片思いをするとき	片思いをされるとき
先輩と同じ進路や学校を選ぶとき	後輩から、自分と同じ進路や学校を選ばれたとき
車を運転する際、前の車について行くとき	車を運転する際、うしろから車についてこられるとき
列に並ぶときに前にいる人を見るとき	列に並ぶときに後ろにいる人から見られるとき
自分の前を歩いている知らない人について行くとき	知らない人から自分の後ろについてこられるとき
飲食店で、他人が食べている様子を見るとき	飲食店で、自分が食べている様子を見られるとき
誰かを評価するとき	誰かから評価されるとき
他人が勉強しているところを見るとき	自分が勉強しているところを他人に見られるとき
他人のプライベートを知るとき	自分のプライベートを他人に知られるとき
周りで電話している他人の音が自分の耳に入るとき	自分が電話している時の声を、他人に聞かれるとき
他人の携帯の画面が目に入るとき	自分の携帯の画面を他人に見られるとき
知らない人に話しかけるとき	知らない人から話しかけられるとき
友人に何か相談するとき	友人から相談されるとき